

GSJ 地球をよく知り、地球と共生する

地質ニュース

2024

11

Vol.13 No.11

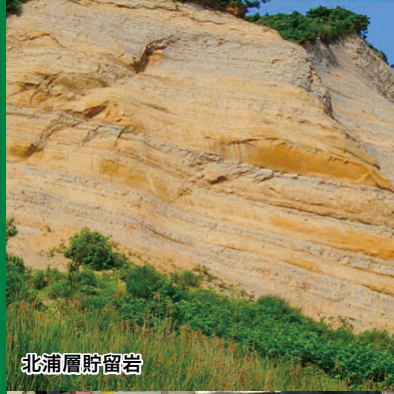


11月号

-
- 281 **令和 6 年（2024 年）能登半島地震の概要と産総研の対応**
藤原 治・今西和俊
-
- 284 **令和 6 年能登半島地震に先行して長期継続した群発地震**
雨澤勇太
-
- 292 **地下水資源の維持に重要なエリアがひと目でわかるマップが完成**
—水文環境図「越後平野（信濃川流域）」の公開—
町田 功・坂東和郎・藤野丈志・小酒欽弥・五十石浩介・野内冴希・
小西雄二・井川怜欧・松本親樹・内田洋平・シュレスタ ガウラブ・
バトデンベレルバヤンズル・福本幸一郎
-
- 297 **地質標本館特別展「GSJ のピカイチ研究 —2023 年のプレスリリース等で発信した成果より—」の開催**
森田澄人・都井美穂・清水 恵・地質標本館室運営グループ
-
- 300 **2024 年度第 1 回地質調査研修（地質図作成未経験者向け）実施報告**
利光誠一・羽地俊樹・住田達哉
-
- 304 **土壌中のナノプラスチック濃度の測定技術を開発**
—地圏環境中に拡散したプラスチック粒子量分布の把握に貢献—
土田恭平・井本由香利・斎藤健志・原 淳子・川辺能成
-
- 307 **書籍紹介 「地形環境史研究 —地理学と考古学・歴史学の接点—」**

脱炭素と 社会・経済が 調和した トランジションに向けて

エネルギー・環境・資源制約へ対応する 燃料資源地質研究



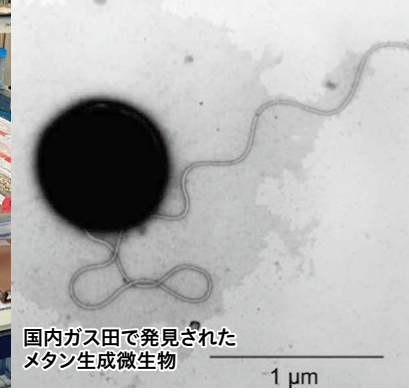
北浦層貯留岩



海底に露出しているメタンハイドレート



ちきゅう船上でのコア観察



国内ガス田で発見された
メタン生成微生物

1 μm

2024年12月6日(金)

13:30～17:30 ▶受付開始 13:00～
▶参加費無料

秋葉原コンベンションホール秋葉原ダイビル2F
JR秋葉原駅 電気街口 徒歩1分

2050年のカーボンニュートラル実現に向けて、今後も脱炭素化への流れの加速化が予想される一方で、エネルギーの安定供給のための資源確保の重要性は増しており、これまで以上に環境と調和した燃料資源の開発が求められています。

本シンポジウムでは、エネルギー・環境・資源制約への対応に向けた当部門での燃料資源研究の今後の方向性について触れるとともに、招待講演を交え、在来型燃料資源、表層型メタンハイドレート、微生物起源天然ガスに関して、地質学的解釈に基づくこれらの成因やポテンシャル評価等に関わる最新の研究動向を紹介します。

PROGRAM

13:30～13:35	開会の挨拶	副研究部門長 鈴木 正哉
13:35～13:50	地圏資源環境研究部門の概要	研究部門長 相馬 宣和
13:50～14:10	カーボンニュートラル実現のためのCCSの現状とさらなる発展に向けた課題	首席研究員 徂徠 正夫
14:10～14:50	石油・ガス開発とカーボンニュートラルに資する燃料資源地質研究の役割	[招待講演] 石油資源開発株式会社 技術本部 技術研究所 フェロー 高野 修氏
14:50～15:20	各グループの研究トピックス及びポスター紹介	各研究グループ長
15:20～16:10	ポスターセッション	
16:10～16:35	日本海側堆積盆における石油・天然ガス鉱床形成へのテクトニクスの役割	燃料資源地質研究グループ キャリアリサーチャー 中嶋 健
16:35～17:00	日本海の表層型メタンハイドレート： 特徴的な地質学的背景におけるその生成シナリオ	物理探査研究グループ 主任研究員 浅田 美穂
17:00～17:25	国内の新規微生物起源天然ガス田の可能性	燃料資源地質研究グループ グループ長 吉岡 秀佳
17:25～17:30	閉会の挨拶	地質調査総合センター長 中尾 信典

参加申込方法

地圏資源



または <https://unit.aist.go.jp/georesenv/>
へアクセスしてください。



▶申込締切 2024.12.2(月)

ジオスクーリングネット

CPD3.5単位

単位取得を希望される方は事前登録が
必要となります

懇親会

シンポジウム終了後に懇親会の開催を
予定しております

地質を用いた 斜面災害 リスク評価

高精度化に必須の
地質情報整備

2024.

12/20 **金**

13:00-17:20 (受付開始 12:30)

会場：アクロス福岡 7F大会議室
(福岡県福岡市中央区天神 1丁目1番1号)
地下鉄空港線天神駅から徒歩 5分 (16番出口直結)

定員：会場200名+オンライン300名
CPD：3.5単位 (現地参加のみ)

主催：GSJ 国立研究開発法人
産業技術総合研究所
地質調査総合センター

共催：産業技術連携推進会議 知的基盤部会 地質分科会
後援：九州大学、熊本大学くまもと水循環・減災研究
教育センター、福岡県、大分県、
一般社団法人 全国地質調査業
協会連合会、日本応用地質学会九州支部、
公益社団法人 日本地すべり学会九州支部

事前登録制

参加費無料

ストリーミング配信

事前登録、
講演の詳細は
ウェブで

<https://www.gsj.jp/researches/gsj-symposium/sympo43/>



※ポスターセッションは現地のみ

お問い合わせ

地質調査総合センター
第43回 GSJ シンポジウム事務局
☒ M-gsj-sympo43-jimu-ml@aist.go.jp
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1 中央事業所7群

講演プログラム

- 基調講演 斜面災害の地質による個性
..千木良 雅弘 (公益財団法人深田地質研究所 理事長・京都大学名誉教授)
- 基調講演 砂防行政に係わる最近の話題
..梅本 武史 (国土交通省 水管理・国土保全局 砂防部 砂防計画課)
- 基調講演 火山地域で発生する豪雨・地震に伴う斜面災害
..宮縁 育夫 (熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 副センター長)
- 招待講演 九州の地質を踏まえた斜面災害リスク評価に向けて—その課題と期待される効果—
..... 大石 博之 (西日本技術開発株式会社 調査部)

- 産総研における斜面災害研究とその意義
..... 宮地 良典 (産総研 地質調査総合センター)
- 北部九州地域における時系列衛星画像を用いた斜面災害観測と素因・誘因分析
..... 水落 裕樹 (産総研 地質調査総合センター)
- 斜面災害リスク評価のための火山地域における熱水変質地帯での磁気探査の活用
..... 大熊 茂雄 (産総研 地質調査総合センター)
- 広域地質調査が明らかにした九州の地質の新たな枠組み
..... 斎藤 眞 (産総研 地質調査総合センター)
- 総合討論：九州の斜面災害の防災・減災に向けて—産学官の連携へ—
- ポスターセッション 発表 8件

とっておきたくなる！
奥深い「テフラ」の世界を月替わりで

地質標本館 カレンダー

2025
年版

リング綴じ、A4 サイズ、壁掛け式：
1,380円(税込)



折りたたみ トートバッグ

丈夫で使いやすい
デスモスチルス グッズに
色違い登場！

ポリエステル：680円(税込)

New
Color



地質標本館の
はじめました X
フォローして最新情報をチェック！



Geological Museum
地質標本館



詳しくは
ウェブサイトへ

国立研究開発法人
産業技術総合研究所 地質調査総合センター 地質標本館
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1 TEL:029-861-3750 <https://www.gsj.jp/Muse/>

GSJ 地質ニュース編集委員会

委員長 中島 礼
副委員長 戸崎 裕貴
委員 竹原 孝
児玉 信介
草野 有紀
宇都宮 正志
山岡 香子
森尻 理恵

事務局

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
地質調査総合センター
地質情報基盤センター 出版室
E-mail : g-news-ml@aist.go.jp

GSJ 地質ニュース 第 13 巻 第 11 号
令和 6 年 11 月 15 日 発行

**国立研究開発法人 産業技術総合研究所
地質調査総合センター**

〒 305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1
中央事業所 7 群

印刷所

GSJ Chishitsu News Editorial Board

Chief Editor : NAKASHIMA Rei
Deputy Chief Editor : TOSAKI Yuki
Editors : TAKEHARA Takashi
KODAMA Shinsuke
KUSANO Yuki
UTSUNOMIYA Masayuki
YAMAOKA Kyoko
MORIJI Rie

Secretariat Office

National Institute of Advanced Industrial Science and Technology
Geological Survey of Japan
Geoinformation Service Center Publication Office
E-mail : g-news-ml@aist.go.jp

GSJ Chishitsu News Vol. 13 No. 11
November 15, 2024

Geological Survey of Japan, AIST

AIST Tsukuba Central 7, 1-1-1, Higashi, Tsukuba,
Ibaraki 305-8567, Japan

令和6年能登半島地震の緊急調査航海と、猿山岬付近の海岸隆起および斜面崩壊の痕跡 [cover photo](#)



令和6年能登半島地震の震源域において、高分解能反射法音波探査を用いた緊急海洋地質調査を実施した。写真は沖合500m付近から見た能登半島北西岸、猿山岬（石川県輪島市門前町）の様子である。海岸線から急激に立ち上がる海食崖は新第三紀前期中新世の堆積岩（道下層）^{とつげ}からなり、スカイライン上には猿山岬灯台が聳^{そび}える。海岸線を縁取る白い帯は、地震に伴う海岸隆起で生じた。白い帯の上端は地震前の低潮位面の高度を記録しており、帯の高さ（幅）は海岸の隆起量（この地域の隆起量は約4mとされている）を表す。白い帯を覆う土石流堆積物は、強震動によって斜面崩壊が発生したことを物語る。

（写真・文：大上隆史 産総研地質調査総合センター活断層・火山研究部門）

Urgent marine geological survey after the 2024 Noto Peninsula earthquake, passing the uplifted and collapsed rocky coast of Cape Saruyama.
Photo and caption by OGAMI Takashi